

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(総務常任委員会) 防災力の向上について		
開催日時	令和4年 10月 31日 14時00分 ~ 15時00分		
開催場所	多治見市役所本庁舎5階全員協議会室		
出席議員	挨拶	石田 浩司	説明者 奥村 孝宏
	司会者	三輪 寿子	
	対話議員	Aグループ：奥村孝宏、吉田企貴、若林正人、石田浩司	
		Cグループ：片山竜美、城處裕二、仙石三喜男	
記録者	サポート：山田 徹、玉置真一、若尾敏之、加藤元司		
記録者	Aグループ：林 美行、Cグループ：佐藤信行		
参加人数	合計 12 人		
報告内容	<p>【Aグループ】</p> <p>○全体として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時は情報が大切。どのように届けるのかが課題。(豊田市のように) 防災ラジオを希望者が入手できる環境であることが望ましい。パソコンがない方、スマホがない方、防災無線が聞き取れない方には情報が届かない。 <p>○自助について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプができる道具+3日分の食料を確保している。 <p>○共助について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動できる人材が不足している。特に消防団は、OBの有志の方に活躍してもらってはどうか。そのためには、登録制度や定期的訓練が必要。自主防災隊は十分に機能していない。 <p>○公助と自助、共助について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感震ブレーカーの普及や、トイレ問題への対応が大切。地元では地域力を立ち上げて防災意識の向上に取り組んでいる。地域で防災委員を指定し、地震に特化した防災意識を高める活動を行っている。中でも大切な活動として行っているものが、水を使わなくてもいいトイレ(ビニール袋と凝固剤をセットにしたもの)の講習会である。各世帯にお届けすることは難しいが、集会所の掃除のときなどに講習会を開催し、普及を進めている。終了後は持ち帰っていただいて家庭で広めてもらっている。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防職員、消防団員の確保は大事。支える市民の側では、防災士が多くいるとよい。公費での支援はできないのか。 ・障がいのある人等への避難の支援が、どのような仕組みなのかよくわからない。助けが必要な人の名簿が町内にあるようだが、災害が起きた際にどのように機能するのか。助けに来てくれる人とは顔見知りでありたい。避難所へ行くことにも大きな不安がある。固形物が食べられない人の食事は市で準備されるのか。 		

	<p>【Cグループ】</p> <p>○共助について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の統廃合もそうだが、なかなか一般市民まで情報が下りてこないなので、もっと議会として取り組んでいただきたい。 ・自分の家は比較的災害から縁遠いため、万が一の際は自宅を避難所として利用してもらってもよい。 <p>○公助について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅団地に住んでいるが、団地への進入路が一つしかないため、万が一、道路が塞がってしまったら避難ができるのかどうか心配である。ハザードマップを含め、実際に災害が発生した際、市として安全かどうかの調査・把握をしているのか。されていなければ調査し、対策を講じてほしい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の防災力は遅れている。本市特有の雰囲気があり、市民は受ける側の立場にいる。 ・防災士について、活発に動いている他自治体を参考に、引っ張ってくれる人材を育成すべき。 ・平和町に住んでいることもあり、防災力は上がっていると感じているが、他の市民も同じように評価をしているのか疑問。もっとわかりやすく発信できるといいと思っている。 <p>○対話集会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと多くの市民が参加されると思っていた。もっと周知PRを考えた方がよい。 ・平日昼間の時間帯だと現役世代は参加できないと思う。
--	--

多治見市議会議長 石田 浩司 様
上記のとおり報告します。

令和4年10月31日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(総務常任委員会) 防災力の向上について		
開催日時	令和4年 11月 7日 14時00分 ~ 15時00分		
開催場所	多治見市役所駅北庁舎大ホール		
出席議員	挨拶	石田 浩司	説明者 奥村 孝宏
	司会者	三輪 寿子	
	対話議員	Aグループ：奥村孝宏、吉田企貴、石田浩司	
		Bグループ：片山竜美、若林正人、仙石三喜男	
記録者	サポート：山田 徹、玉置真一、柴田雅也、若尾敏之、林 美行		
参加人数	合計 12 人		
報告内容	<p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回の防災訓練で、町内全体で安否確認を行っている。現在、防災訓練は、町内全体で集合場所に集まる形式で行っているが、最初は班単位で集まり、人数を確認し、班の単位で集合場所に集まるという形式にして、実効力を高めたい。 ・今年から各町内で消火訓練と放水訓練を行った。今後は4つのブロックに分けて行うようにして、消火訓練の基本を再確認し、実際に行動ができるようにしたい。 ・多治見市の消防職員が少ないのはなぜなのか教えてほしい。 →総務省の指針と比べると少ないが、少しでも増やしていくために努力している、本年は3名の職員が増えた。 ・駅南に29階建てのマンションが建ったが、消防機器はどのようなか。 →梯子車は35mで11階まで届く。11階以上のフロアにはスプリンクラーなどの消防設備の設置や、避難階段を二方向に取り付けるといったことが国の基準で決まっている。 ・地震で家が倒壊し、火災が起きるのが一番心配。国の対策も重要だが、多治見市として、地震に対して、何か独自の対応策を考えてほしい。 ・多治見市としての食料の備蓄はどうなっているのか。 →各地域に防災倉庫があるが、すべての市民の食料の備蓄はできない。地震で避難するときは、3日分の食事は準備して避難願いたい。 ・障がい者の避難場所はどのようになっているのか。 →基本的には、家族と一緒に避難所に避難する。どうしても行けない場合は福祉施設に連絡し、確認をお願いしたい。 ・南姫地区の避難場所は地区の西側にかたまっているの、町内の倉庫にラジオや備蓄品を少しでも準備しようと考えている。 ・防災ラジオを市で設置してほしい。新本庁舎は駅北に建設予定だが、現状、FMたじみは川の南側にある。地震などの災害が起きた時のことを考えると、新本庁舎で対応をお願いしたい。 ・防災士の育成が進んでいない、土岐市、瑞浪市、恵那市は防災士の資格取得のための補助が準備されている。防災士資格が取得しやすい環境を整えてほしい。 		

【Bグループ】

○市に対して、議会に対して

- ・池田地区は水害が心配される地域なので、災害に敏感な地域である。山を拓いての開発は、災害が起きないか心配なので、安全に十分配慮すると同時に、安全が保障されない開発はやめていただきたい。
- ・消防団が必要かどうか議論していくべき。

○市に対して

- ・要支援者名簿の活用は自治会任せになっており、活用の仕方が示されていない。正直持っていて意味がない。
- ・違法な盛土が本市にもあるのか心配である。調査をして把握してほしい。
- ・消防職員の定数を改定し、増やすべき。今は防災に予算を増やさないといけない状況。

○共助について

- ・防災訓練に参加できない人をどのように助けることができるのか。来れない人を対象とした訓練も行っていく必要がある。
- ・町内会に加入しない問題については、行政ももっと介入していくべき。
- ・外国人居住者も増えてきているが、そういった方々が避難できるように、また、避難の際、外国人居住者も救助に協力できる方法を考えてほしい。
- ・消火栓のホースの点検を区で管理することになったが、私たちの区では消防団も点検を実施できない。ほかの地域はどうか？
→ほかの地域では自治会・消防団が実施しているとの報告あり。

○その他

- ・新本庁舎建設予定地が駅北であるならば、帰宅難民の一時避難所として活用できるようにしてほしい。

多治見市議会議長 石田 浩司 様
上記のとおり報告します。

令和4年11月 7日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(経済建設常任委員会) ロケツーリズムの活用法		
開催日時	令和4年 10月 31日 19時00分 ~ 20時00分		
開催場所	多治見市役所本庁舎5階全員協議会室		
出席議員	挨拶	石田 浩司	説明者
	司会者	片山 竜美	山田 徹
	対話議員	山田 徹、佐藤信行、渡部 昇、古庄修一、柴田雅也、林 美行	
		サポート：城處裕二、仙石三喜男	
	記録者	渡部 昇	
参加人数	合計 5 人		
報告内容	<ul style="list-style-type: none"> ・モザイクタイルミュージアムは、人を呼び込み、まちを盛り上げている。冒頭、ロケツーリズムによる「直接の効果」「間接の効果」という説明があったが、まずは直接の効果を得ることを考えてはどうか。モザイクタイルミュージアムをきっかけに、どれだけお金を使ってもらうかが大事。そのために何が必要かを考えていくことが重要。 ・モザイクタイルミュージアムを観光した後、飲食店や近くの観光地がわかるようにできないか。多治見市内には見どころや飲食、土産など魅力のあるところはいっぱいあるが、単独で所在しており、セッティングがばらばらである。これらを連携させた大きなまちづくりがポイントではないか。ポイント、ポイントが見せられる状態にあるのが大事。 ・多治見市は歴史がある、その歴史をもっとアピールした方がよい。 ・モザイクタイルミュージアムは、SNS 映えはよいが食事をする所がないので考えてほしい。 ・多治見市の商店街を魅力ある商店街にするため、何か良い手立てを考えてほしい。 ・多治見市は歴史があるまちで、他市から来た人が観光してまわれるように、誰が見ても多治見のよい所が一目でわかるようなものが必要ではないか。 ・11月にラリージャパンが愛知県、岐阜県を会場に開催される。ラリージャパン観戦者を多治見に呼び込むために、自動車に関連したイベントや展示を行うなど、近隣で行われるイベントにタイアップして人を呼び込む仕掛けをしてはどうか。 		

多治見市議会議長 石田 浩司 様
上記のとおり報告します。

令和4年10月31日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(経済建設常任委員会) ロケツーリズムの活用法		
開催日時	令和4年 11月 2日 19時00分 ~ 20時00分		
開催場所	多治見市役所駅北庁舎大ホール		
出席議員	挨拶	石田 浩司	説明者
	司会者	三輪 寿子	山田 徹
	対話議員	Aグループ：山田 徹、古庄修一、柴田雅也	
		Cグループ：佐藤信行、渡部 昇、林 美行	
記録者	サポート：玉置真一、寺島芳枝、若尾敏之、若林正人、嶋内九一		
記録者	Aグループ：加藤元司、Cグループ：片山竜美		
参加人数	合 計 7 人		
	<p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住んでいては分からないことが、外からは素晴らしい魅力と感じるものである。 ・前市長時代は、東京在住であったため東京特派員の肩書で行政との付き合いがあったが、現在はどうか？ ・ロケツーリズムとは何か、多治見市が選ばれるために何をすべきなのか。 ・ジブリパークのオープン映像で、タイルの流し台が紹介されていた。全国的に注目されるチャンスの中、多治見市で制作等のPRが全くない。より情報発信に努めるべき。 ・魅力の発信を強化すべき。 ・陶芸の関連施設利用の多様化、視点を変える、陶産地としての広域連携、多治見市の誇る虎渓用水広場のより一層の利活用を。 ・川のあるまちはとても魅力的、より一層の活用を。 ・永保寺、修道院、多治見市民の意識を高める努力を。 ・「やくも」の効果はどうだったのか、全市的な波及効果は？ ・仕事に追われ、多治見市の魅力に気付いていなかった。今後の自分に期待。 <p>【Cグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいところをよりよく見せる、PRするには、しっかりとしたプロに頼むべきである。それなりにお金を使っていかないとよいものはできない。その予算があるかどうか、まずはそこが問題ではないか。 ・多治見市は「暑い」ということで、全国的に名前が知られている。そこにさらにインパクトのあるものが加われば、もっとメジャーになる可能性を秘めている。 ・多治見市は適度な都会感がいい。全くの田舎でもなければ、都会でもない。ながせ通りなどよい店がある、映画「ALWAYS 三丁目の夕日」のような感覚がある。 ・永保寺は有名である。そこでもっと何かできないだろうか。 ・「やくも」の声優のサイン色紙が本庁舎にあるが、もったいない。もっと人目につくところに展示してはどうか。「やくも」の公用車も同様である。 ・これまでの既成概念をぶち破っていかないといけない。 ・駅前のイベントにもっと若者を呼べる工夫をするとよい。親子連れなら、その上の世代も連れてくる。また、よいものであれば、友人を誘う。この連鎖反応で、人がたくさん呼べ 		

	<p>るのではないか。</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none">・対話集会の参加者を増やすためには、日常生活に結び付くテーマがよい。例えば、公共交通の在り方など。・議員の考えをもっと聞きたい。市民から聞くばかりでなく、もっと自分の意見を言ってほしい。・地域の議員の存在ではなく、多治見市の議員として、もっと接する機会が欲しい。
--	---

多治見市議会議長 石田 浩司 様
上記のとおり報告します。

令和4年11月 2日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(厚生環境教育常任委員会) 多治見市の環境を考えてみませんか？		
開催日時	令和4年 10月 31日 19時00分 ~ 20時00分		
開催場所	根本交流センター大ホール		
出席議員	挨拶	若尾 敏之	説明者 玉置 真一
	司会者	三輪 寿子	
	対話議員	Aグループ：玉置真一、三輪寿子、嶋内九一	
		Bグループ：井上あけみ、加藤元司	
		Cグループ：寺島芳枝、若尾敏之	
記録者	サポート：奥村孝宏、吉田企貴		
記録者	Aグループ：三輪寿子、Bグループ：加藤元司、Cグループ：若林正人		
参加人数	合計 16 人		
	<p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山の自然環境を好んで多治見市に引っ越してきた。太陽光発電は再生可能エネルギーではあるが、開発のために山林が削られており、自然環境への悪影響が心配。制限はできなくても、事業者に対して近隣への配慮を求めることはできないか。 ・環境、社会、経済、どれが一番大事と問われたら、どれも大事だが、自分は環境の中に社会があり、経済があると捉えている。 ・里山と言われる環境の中に家がある。イノシシやイタチをはじめ在来動植物が多く見られ、先日オオタカの生息も確認した。父の代から環境破壊を恐れて山を手放すことなく今に至る。平成 20 年代の豪雨の際、近隣の開発区域では小規模な土砂崩れが発生したが、自身の土地は自然林の保水力により被害はなかった。 ・根本川は下水道整備により清流がよみがえったが、北丘川はごみが散らかっていたり下水道が整備されていないところがあったりする。まだまだ改良しなくてはいけない。 ・多治見市は環境基本計画に沿って施策が実施されているが、その後の検証はどのようなか、効果はどうであったのか、市民生活への影響がどのようなかが伝わってこない。例えば、不法投棄の有無や撤去等の状況がわからない。 ・土岐市にイオンモールができたことで交通量が増えた。樹木や雑草が繁茂し、視界が悪く危険であるため伐採をお願いしている。迅速な対応を求める。 <p>【Bグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスが廃止され、交通環境は良くない。「よぶくるバス」は平日限定で時間制限もあり使い勝手が悪く、運転免許証の返納をためらっている。 ・大原川沿いでは、ホテルや彼岸花、川に入って遊ぶ子どもたちの姿がある。私の地域では見られないうらやましい光景である。 ・私の地域では、昭和 50 年代に下水道が整備されているが、今も浄化槽を使っている方がいる。家庭の事情もあると思うが、下水道を利用し川をきれいにしてほしい。 ・下水道整備はされているが、洗濯水だけ側溝に流している方がいる。近所では言いにくいので、行政から指導してほしい。 ・どのような事で川が汚れるのか知らない方もいるので、6月の環境月間等でチラシを作成 		

して啓発してはどうか。

- ・私の地域が、ごみリサイクル分別のモデル地区だったこともあり、地域で清掃ボランティアに取り組んでいる。せめて通学路の清掃は学校関係者で行っていただけないか。地域の清掃ボランティアはメンバーが高齢化してきており、60歳代の参加が進まないなか、後継者がいないことが問題である。
- ・根本地区の皆さんの取り組みは聞いている。私の地域で同じように実践することは難しいと思う。モデルケースでの取り組みをどのように地域内外に浸透させるかが課題である。
- ・私の地域の公園は愛護会が管理しているが、愛護会も高齢化が進んでいる。また、公園ではないが、県道や国道沿いに草が生い茂っているのが気になっている。特に、美濃焼卸センターでの陶器まつりの時など、明和町の交差点付近はきれいにしていきたい。
- ・松坂自然公園の看板が朽ちている。現場が管理できていない。市役所が管理するのか、ボランティアが行うのか。市役所に相談すると二言目には「予算がない」という回答である。
- ・上手くやっている地域を広報で紹介するなど、行政と地域、議員がきめ細かに調整していくことも必要。

【Cグループ】

虎溪山周辺を中心に、シデコブシ等の保護活動にご尽力をいただいている方、地元根本で活動中の地域力向上推進会議における環境部会の方々から、地域における住民主体の環境保全活動をご紹介していただいた。

改めて、根本地区の地域力の高さに敬服した次第ですが、その環境活動を推進する上での懸念について、行政に対しての要望をいただいた。

イノシシを始めとし、ヌートリア等の危険鳥獣対策への支援強化の声が、環境保全の現場から多数挙げられた。

同時に、鳥獣以外にも、スズメバチ・カラス対策等についても、今以上の行政からの能動的な支援を求める声をいただいた。

多治見市議会議長 石田 浩司 様
上記のとおり報告します。

令和4年10月31日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(厚生環境教育常任委員会) 多治見市の環境を考えてみませんか？		
開催日時	令和4年 11月 9日 14時00分 ~ 15時00分		
開催場所	多治見市役所本庁舎5階全員協議会室		
出席議員	挨拶	石田 浩司	説明者 玉置 真一
	司会者	三輪 寿子	
	対話議員	Aグループ：玉置真一、寺島芳枝、三輪寿子、嶋内九一	
		Bグループ：若尾敏之、井上あけみ、加藤元司	
記録者	サポート：片山竜美、佐藤信行、渡部 昇		
記録者	Aグループ：嶋内九一、Bグループ：山田 徹		
参加人数	合計 8 人		
報告内容	<p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多治見市は、森林が市の49%を占めるとなっているが、以前はもっと多かったと思う。大規模な宅地開発により、森林が減少し、環境面として悪い方向に向かっているのではないかと危惧している。近隣の森林伐採により風を遮るものがなくなり、自宅に直接北風が当たるようになって困っている。 ・多治見市の自然環境の良い所をもっとPRしてほしい。駅などの中心部分だけではなく、もっと自然に触れられる所も広報などでPRしてほしい ・アウトドアブームを利用して、地球村でのイベントだけでなく、潮見公園や市内の公園をもっと活用し、自然に親しむ機会を増やす工夫があるといいのではないか。 ・自然公園を作っても結局は維持に問題があると思う。自然公園が放置されて本当に自然に還っているところもある。川沿いの遊歩道へ降りる手すりが途中で切れていたり、遊歩道も荒れているところがあったりするので、きちんとした整備をしてほしい。 ・公園や河川に特定外来種が入り込んでいる。駆除の仕方いろいろと制約があって分かりづらい。多治見の自然を守るためにも外来種の駆除も考えていかないといけない。 ・多治見市は山林が多いが秘境の趣ではなく、名古屋からのアクセスが良い。これだけ山林があればキャンプ場等の使い道がある。自然の良さをPRして利用した方がよい。 ・道路整備などには企業スポンサーを募って整備してもらえば、少しは予算の削減ができるのではないか。 <p>【Bグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多治見市は住みやすく、住みにくいまち。便利になった分、車が多くなり交通の便は悪い。土岐川の水はきれいになったが、魚は少なくなったように思う。 ・幹線道路が開通して便利になったが、交通量が多くなり騒音と大気汚染が気になる。 ・アスファルトだったところに市が低木を植えた。市が進める緑化政策の一環と聞いたが、雑草が生い茂るようになり、以後、除草作業の繰り返しである。良かれと思って進められたことでもマイナスになってしまうこともある。 ・多治見市のゴミ分別で、プラスチックを分別しないのはなぜか。 →ペットボトルや発泡スチロールなど資源として分別回収するもの以外は焼却する。ガス化溶融炉で高温処理するため、ダイオキシン等の有害物質は排出されない。 		

- ・多治見市のごみ袋料金は他市と比べて高めだと思うが、少しでもごみが減るように高めに設定しているのか、焼却施設の費用を賄うためなのか。
→行政コストをどれだけ市民に負担していただくかの基準が設定されている。その基準に照らし合わせると、ごみ袋はもっと高くしなければいけないが、他市との均衡もあり現在の金額となっている。岐阜県内では高めの金額であるが、議会としてもやむを得ない金額と考えている。
- ・生ごみ処理容器の購入補助について、多治見市の補助割合は1/4だが、他市は1/2を補助しているところが多い。多治見市も1/2補助にできないか。
- ・段ボールコンポストは消耗品であるが、生ごみ処理容器の購入補助の対象にできないか。
- ・喜多緑地は大変いい公園である。イノシシ対策とこまめな除草により、多くの子どもの遊び場、運動の場になるといいと思う。高齢者の運動の場にも適していると思う。

多治見市議会議長 石田 浩司 様
上記のとおり報告します。

令和4年11月9日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(本庁舎建設に関する特別委員会) 市役所本庁舎建て替えについて		
開催日時	令和4年 11月 7日 19時00分 ~ 20時00分		
開催場所	駅北庁舎大ホール		
出席議員	挨拶	石田 浩司	説明者 吉田 企貴
	司会者	三輪 寿子	
	対話議員	Aグループ：城處裕二、若林正人、嶋内九一 (記録者) 渡部 昇	
		Bグループ：奥村孝宏、佐藤信行、三輪寿子 (記録者) 加藤元司	
		Cグループ：玉置真一、柴田雅也 (記録者) 林 美行	
Dグループ：井上あけみ、仙石三喜男 (記録者) 山田 徹			
Eグループ：寺島芳枝、古庄修一 (記録者) 片山竜美			
参加人数	合計 19 人		
	<p>【Aグループ】</p> <p>○駐車場は必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点となるなら駐車場はもっと必要 ・転用できる駐車場 ・路上駐車が増えるのではないか <p>○機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランスで親子が集えるスペース ・防災拠点としてほしい <p>○夢のある市役所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景色のいいレストランがほしい ・虎渓用水広場と一体的な使用ができる ・スポーツジム <p>○何のための庁舎？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消滅可能性都市からの脱却 <p><u>具体案</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住定住の促進によるような PR と展示 ・保育園 ・千葉県流山市のような子育て支援の園送迎バスステーション <p><u>建設に対する不安</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物価上昇による建設費への影響 ・最低限必要なものとプラスアルファで必要なものを分けて、市民と議論する <p>【Bグループ】</p> <p>○使いやすい市役所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が使いやすいとともに、職員が使いやすい市役所 <p>○道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス道路の整備を先に行い渋滞解消を図る。 ・市職員の約5割が車通勤なので朝夕の混雑は必須。 		

○駐車場の確保

- ・公共交通のバランスが良くない現状から、駐車場の確保は必要。

○跡地利用

- ・旧庁舎の跡地利用と一体的に建築構想を行うとともに、土岐川を利用したまちづくりで、相互にプラスとなるように。

○にぎわいの創出

- ・オープンスペースやフリーフロアを充実し、高校生や市民らが立ち寄り、談話したり勉強したりお弁当を食べたりできるようにする。
- ・市役所に用がなくても立ち寄れるような庁舎。
- ・虎渓用水広場と一体化したガラス張りの庁舎。

○防災拠点

- ・防災機能の充実。
- ・避難所となるような庁舎。

○コスト・効率化

- ・将来の人口減少に対応し、トータル的に財政の負担を減らす。
- ・ICT活用等で申請や証明書交付を行う、人が来ない市役所。
- ・業務のWeb化、東京都渋谷区や大阪府豊中市のような「市役所に来なくても用が済む」市役所を考える。

【Cグループ】

○窓口対応（ソフト・ハード）

- ・たらい回しにされない窓口対応
- ・職員から市民の顔が見えるようにしてほしい

○建物

- ・シンプルな建物
- ・本会議場は入りやすいように

○市民の集いの空間

- ・子育てルーム
- ・音楽などができる場所
- ・コンサート
- ・高齢者用にぽかぽか広場のような場所
- ・市民が気軽に行けるところ（ネーミング等の工夫）

*市民の声を如何に聴くか。

*参加者3名の内2名の方から、自分たちの参加した動機から考えると、どのような庁舎を考えるのかという内容を意見としてはかけない、という議論が長く繰り返された。

*市と議会は、市民に寄り添ってほしい。

*DXの時代にふさわしいコンパクトな庁舎でよい。

*行政庁舎は、シンプルなものでコストをかけなくてよい。

*わかりやすい窓口体制で、市民の方を向いた行政の姿勢が表れた内容であってほしい。

*高齢者が使いやすい体制であってほしい。

【Dグループ】

○連携・コミュニケーション

- ・職員が使いやすい、働きやすい環境の整備
- ・職員、一般の人も利用できる施設（例…食堂やコミュニケーションスペース）

○利用しやすさ

- ・休日の窓口対応…町内会や区の案件（道路、水道、環境）の対応
- ・デジタル化の推進…提出資料なども来庁せずともメール等で対応してほしい。

○予算

- ・世界が変わってきているのに予算は大丈夫なのか？
- ・シンプルな建物であってほしい。
- ・建設コストをしっかりと洗い出して進めてほしい。

○防災機能

- ・災害時の緊急避難場所として利用できる

○にぎわい

- ・庁舎内で多治見のPRをしてはどうか？体験型の施設を入れる（作陶、タイル）

○駐車場

- ・駐車場はそれほど必要ないのではないか？

【Eグループ】

本庁舎建設を考える視点

- ①市民の視点から
- ②職員の視点から
- ③市の景観としての視点から

○デジタル化の推進（①②）

- ・市民が使いやすく、職員の生産性の上がる最先端のDXの導入をしてほしい。
- ・そのうえで庁舎を考えると、そんなに高層階は不要である。

○地区事務所の充実（①）

- ・地区事務所を充実させれば、本庁舎に行かなくて済む。一体として考えてほしい。

○コストに関すること（①②③）

- ・コストはかけないでほしい。
- ・必要などころ、なくてもいいものをしっかりと精査してほしい。
- ・あわてて作らないでほしい。
- ・国からの支援がわかってからとりかかってもよいのでは。

○庁舎の利用（①）

- ・名古屋へ通勤する人のために、託児所がほしい。

○国や県との連携

- ・県事務所などと一体化すると市民も便利である。

○市議の考え方を聞きたい

- ・庁舎の中身が大切。どのような市役所にしたいか市議に意見をききたい。
- ・市議の皆さんは、どれくらいのお金をかけたいのか。
- ・他市がどのような市役所にしているのか、情報を集めてほしい。

多治見市議会議長 石田 浩司 様
上記のとおり報告します。

令和4年11月 7日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(本庁舎建設に関する特別委員会) 市役所本庁舎建て替えについて				
開催日時	令和4年 11月 9日 19時00分 ~ 20時00分				
開催場所	駅北庁舎大ホール				
出席議員	挨拶	石田 浩司	説明者	吉田 企貴	
	司会者	三輪 寿子			
	対話議員	Aグループ：城處裕二、若林正人、嶋内九一		(記録者)	渡部 昇
		Bグループ：奥村孝宏、佐藤信行、三輪寿子		(記録者)	加藤元司
		Cグループ：玉置真一、柴田雅也		(記録者)	林 美行
Dグループ：井上あけみ、仙石三喜男		(記録者)	山田 徹		
Eグループ：寺島芳枝、古庄修一		(記録者)	片山竜美		
参加人数	合 計 16 人				
	<p>【Aグループ】</p> <p>○周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場（駐車場が高い） ・ 南からスムーズに行ける道路 ・ 安全な道路を先につくる <p>○整備方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のハブになってほしい ・ 最低限必要なものとプラスアルファで必要なものを分けて、市民と議論する <p>○市民サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅に近いので開庁時間をフレックスに ・ 市役所に来なくていいような ICT 活用 ・ 地区事務所も含めた行政サービス <p>○条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍、延期選択肢を示してほしい <p>○施設に欲しいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に映画を上映したい ・ 安価または無料で多目的に使用できるスペース ・ 起業支援事務所の拡大（BI ルーム） ・ 虎渓用水広場と連動した屋内型の子どもの遊戯室、イベントスペース ・ 議場の多目的活用(映画上映などができる) ・ 観光コンシェルジュ ・ 防災対応がしやすいような活用 ・ 駅前保育、託児施設、駅前学習室、駅前子ども食堂 <p>○要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議決前に実施してほしい 				

【Bグループ】

○駐車場の確保

- ・使いやすい広い駐車場が必要だ。
- ・高齢者や若いママが楽に行ける駐車場を作ってほしい。
- ・現在の駅北庁舎地下駐車場は“思いやり駐車場”というが不便だ。

○コスト

- ・総工費52億円というがシンプルな建物にしてほしい。
- ・東濃信用金庫本店とほぼ同じ大きさなので、費用の比較をしてほしい。
- ・一等地に建てる意味があるのか。

○道路の整備

- ・アクセス道路の整備を先に行い渋滞解消を行うべきだ。

○市民に対して

- ・市民が利用しやすい市役所。
- ・市民に愛される人材による市役所。
- ・もっと市民に説明してほしい。
- ・もっと利便性のあるものにすべき。
- ・利便性のある地区事務所の充実。
- ・西寺市政の時に駅前に事務所を開設し利便性を図った。
- ・多治見市の未来への期待は消えた。

○市に対して

- ・市全体を見る。
- ・長期ビジョンで考える。

【Cグループ】

○スムーズな窓口

- ・効率的な事務処理（面倒な手続きの解消）
- ・高齢者にわかりやすい窓口（事務内容）

○市民のための空間

- ・職員、業者、議員のためではない市役所
- ・コンサート、セミナー等が開催できる
- ・講座等の開催（テーブルコーディネート）

○アクセス

- ・公共交通の充実

○ICTの活用

- ・来庁不要

○規模

- ・シティーオフィス
- ・コンパクトな庁舎（現在で十分）

○駐車場

- ・駅南にも駐車場

○防災ハブ。災害対応

- ・災害時の避難場所を広く

○その他

- ・本庁舎建設に関する説明を聞きにきたが思っていたものとは違った
- *趣旨の説明が十分理解できなかったので十分議論が深まらなかった。
- *職員・議員・業者だけでなく、市民のための庁舎であってほしい。
- *窓口対応は、地区事務所充実など、高齢者が来庁不要な仕組みとし、無駄なスペースや職員を整理して、その分高齢者に優しい対応を充実させてほしい。
- *防災拠点性は防災指令機能・広い場所、空間を持つようにすべき。
- *アクセスは、公共交通をどのように充実させるか。駐車場は隣接して必要なもの。駅周辺の渋滞、交通問題を解決してから取り組むべきものではないか。
- *行政機能という点では、行政機能で十分なので、シンプルでよいとする視点とコンサートや公民館等のように講座が行えるスペース＝コミュニティホールという視点が出された。

【Dグループ】

○駐車場

- ・駐車場のない市役所なんてあるのか？
- ・駐車場の充実が一番大事なことはないか
- ・平面の広い無料駐車場が必要

○機能

- ・ヘリポートは必要
- ・オフィスビルでいい。
- ・コンビニが入るといい
- ・地区事務所の充実も図るべき

○そもそも移転に反対である。

- ・駅北庁舎ができた時に窓口業務の多い課のみの移転だと聞いていた。
- ・移転の議決の際にどの議員が賛成したのか公表してほしい
- ・川南が衰退している。今の位置に建て直すべきだ
- ・近隣には駅前に市役所のある市はない。
- ・移転の賛否を住民投票してほしい。

【Eグループ】

○庁舎の建物について

- ・映画館のようなものができるとよい（簡易的なものでよい。市民が集える場所）
- ・うながっぱを前面にだす（うながっぱの形をした庁舎、タイルで表現など）
- ・タイルをふんだんに使った市役所

○商業施設が入り、市民が自由に出入りできる

- ・地元の店が入る市役所
- ・陶都創造館をそのまま移設してはどうか
- ・市民のための商業施設を備える

○サービスの向上

- ・土曜日の開所日を増やしてほしい
- ・様々な申請には、専門に丁寧に教えてほしい

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○駐車場<ul style="list-style-type: none">・車からの出入りが気軽にできる。(駐車券不要)・市民だけは、庁舎に用事がなくても無料で使える駐車場○インフラ整備<ul style="list-style-type: none">・コンパクトシティに対応した道路インフラの充実を図る○現本庁舎<ul style="list-style-type: none">・現在の本庁舎建物は残してほしい○その他施策<ul style="list-style-type: none">・市として民間企業のように株主総会を年1回開く。・買い物カード(プレミアム商品券)の発券・マイナンバーカードで住民票などをコンビニで発行できるようにしてほしい。・市議1名で行政相談をする体制をつくる。 |
|--|

多治見市議会議長 石田 浩司 様
上記のとおり報告します。

令和4年11月 9日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子